

きりたんぼラウンド in Akitaの報告

R02. 1. 11

秋田県スポーツ科学センター

秋田県事務局

令和2年ラウンドの幕開けとなる「きりたんぼラウンド」は、県内外を含め36名の方の参加をいただきました。小中高の学校関係者25名、教育委員会関係者9名、大学院生2名といった多様な参加者はもとより、福島県、宮城県、山形県といった東北各地からも参加をいただきました。

窓の外は雪でしたが、当日は、ラウンドの目的にある「学校体育の充実に向けた熱い語り合い」が行われました。

1 トピックス「新学習指導要領を踏まえた学習評価について」

日本女子体育大学 教授 高橋修一先生

事前にラウンド参加者から、「学習評価の在り方はどうなるのか」といった声が寄せられ、今回の高橋先生からの情報提供は注目を集めていました。

高橋先生からは、「児童生徒の学習評価の在り方について」(いわゆる「報告」)に基づいた学習評価の基本的な方向性と改善点はもとより、単元の評価規準と指導と評価の計画の作成の手順を具体的にご教示いただきました。

具体的な学習場面や事例を交えた高橋先生の解説には、特に、次年度全面実施となる小学校の参加者から、「明日から即実践できることをいただいた」といった声がたくさん聞かれました。

2 実践発表「新学習指導要領の全面実施を見据えた県内における授業実践事例」

男鹿潟上南秋教育研究会体育部会副会長 男鹿東中学校教頭 後藤秀司先生

秋田県では、学校体育に関する指導の充実等を目指し、県内各地区体育研究会の持ち回りで、2年に一度、県学校体育研究大会を開催しています。

今回は、今年度研究大会を開催する男鹿潟上南秋教育研究会の後藤先生より、「見通し、学び合い、振り返り、運動する喜びを実感する児童生徒の育成ー「分かる・できる」「自分・仲間」「手応え・楽しさ」がつながる授業ー」と題した実践発表をいただきました。

新学習指導要領の基本的な考え方や改善の具体的な事項を押さえた研究や実践が同研究会で進められているとともに、発表で示されていた様々なキーワードは、後藤先生を含めた同研究会の先生方の研究熱心な姿勢に裏打ちされたものであることを強く感じました。

3 ワークショップ「コンテンツマップの作成」

桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊先生

今回のラウンドを行うに当たっては、学習評価をポイントとして内容構成を考えました。そのため、指導と評価の一体化の確実な推進という観点からも、佐藤先生からワークショップの内容を設定していただきました。

小学校から高等学校までの12年間の系統性や発達の段階を踏まえた4年ごとのまとめりの指導内容の体系化を全体として俯瞰する「コンテンツマップ」の作成は大変勉強になるものでありました。班で作成する領域を決め、作業に取り組み始めた当初は、学習指導要領の解説書とにらめっこするなどのしばしの沈黙が漂いましたが、佐藤先生や高橋先生からのアドバイスにより、作成のコツをつかんだ参加者からは、「この領域の指導の肝(きも)は〇〇ではないか」といった声が出るなど熱心な作業が進められました。

完成まで辿り着けなかった班もありましたが、今後自身で演習を行うおうとする参加者もあり、大変好評を得たワークショップとなりました。

当日になり予定時間を伸ばしたり縮めたりするなど、参加者の皆さんには、ご迷惑をおかけしましたが、講師の佐藤先生、高橋先生、発表者の後藤先生、そして参加者の皆さんのご理解とご協力のおかげで、今年度も有意義なラウンドに終わることができました。本当にありがとうございました。【事務局】

